

ITによる効率化とネットワークの 充実で税理士の仕事が拡がる

む かしむかし40年前、税理士登録するために勤務していた父の税理士事務所では、手書きの伝票起こしや記帳が当然のように行われていました。非効率極まりない転記作業はコンピューターに切り替えたほうがよいと、職員1人ひとりを説得して、当時出始めたオフコンを導入。その業務プロセスを軌道に乗せたところで独立をしました。今では、手書きの総勘定元帳を見たことがない方も多いと思います。

A Iの発展によって税理士の仕事に危機感をあおるような報道がされていますが、私は全く心配していません。税理士でなければできないことがあるからです。たとえば、縁あって税理士以外の士業の方々と交流すると、地域や顧客との距離感が最も近いのが税理士だと実感します。付き合いの年数も、数十年どころか親子3代にわたるケースもあります。中小企業の社長さんは孤独で、家族や従業員に言えないことも税理士には話してくれます。質問事項を打ち込むと回答が出てくるAIによる税務相談ツールはすぐに開発されると思いますが、まず話を聞いて相談者に寄り添うのは、よい税理士でなければできないと断言できます。ITによる事務の効率化と地域や顧客との人間的なつながりは矛盾するものではありません。むしろ距離的、時間的制約から解放されて、求められる範囲は拡大し、ますます税理士の仕事は面白いものになると思います。

最 近、税務をきっかけとした問題が起こっても、ITや税法だけでは解決できないことが多くなっています。当然、税理士としての研鑽は必要ですが、個人の能力では限界があり

ますので、ネットワークの有無が税理士業務にも大きく影響してきます。

若 く経験の少ない頃、全国女性税理士連盟（以下、女税連）に加入し、税制のことや事務所経営、女性としての悩みなどをいろいろと相談してきました。全国に有力な会員がいるおかげで、遠隔地の仕事で助けられたことも教えきれません。また、女税連がきっかけとなり成年後見制度を知り、超高齢社会のわが国での税理士業務のあり方についても考えています。先輩に続く若手会員も優秀で、女性つながりによる他業種や海外との交流もあります。IT革新によって、税理士事務所のあり方や、税理士業務、税理士の位置づけも変わっていくでしょうし、税理士法の改正も必要になってきます。

女 税連のネットワークは最強です。創立60周年を迎えましたので、さらに輪を広げていきたいと思ひますし、税理士業界にとってますます重要なものにしていきたいと考えています。

Profile

税理士

伊藤 佳江

Yoshie Ito



伊藤佳江税理士事務所所長、全国女性税理士連盟会長。

昭和52年明治大学卒業、実務経験のないまま伊藤税務会計事務所就職。

昭和54年独立開業、平成24年～26年東京税理士会副会長、日本成年後見学会常任理事、一般社団法人社会的包括サポートセンター監事、公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート監査役。

近著『税理士だからサポートできる！ 成年後見ハンドブック』（全国女性税理士連盟編著、清文社）